

佐陀川開削 郷土の偉人

# 「清原太兵衛」の小説募集

## 鹿島町 合併40年事業、来春に出版

鹿島町は町合併四十周年「顕彰事業に取り組むこと」結ぶ佐陀川開削に身をさ  
年記念として、郷土の偉人」を決め、宍道湖と日本海を「さげた「清原太兵衛」(一

七二一七八七)に関する懸賞小説を募集する。採用作品は来春出版し、郷土史学習の教材にするとともに「広く小説を募集すること」で、新たな資料発掘にも期待したい」としている。

松江藩に仕えた清原太兵衛は、水害に悩む松江城下を見て、宍道湖北岸と日本海を結ぶ水路の必要性を痛感。藩の許可を得て一七八五年、七十四歳のとき、工事に着手。自らが設計して全長十二キロの佐陀川開削を指揮。完成を目前に没した。

佐陀川の開削によって松江城下は水害から救われ、松江と日本海を結ぶ水路の完成で、鹿島町発展の基礎が築かれた。以後、佐陀川を活用して水産物が松

江に運ばれるなど、人や物の往来が活発になり、港や町が栄えていく。町では六年に顕彰会が発足、公民館活動で研究が行われている。

募集する顕彰小説のテーマは「清原太兵衛翁の偉業」。四百字詰め原稿用紙二百五十一～三百枚以内。十二月六日必着で、郷土史家の藤岡大拙氏らが審査にあたる。入選作一点に賞金百万円、佳作三点に記念品が贈られる。

入選した小説は既に作者の決まっている漫画、児童文学と一緒に来春、出版する。執筆の参考に、清原太兵衛の足跡をたどる見学会を二十八日に開催する。問い合わせは松江市浜乃木、HNS研究所(電話0852・21・8420)へ。

記念事業ではこのほか、同町出身で、魯迅との交遊で知られる中国文学者「増田渉」(一九〇三―一九七七)の顕彰事業も計画。今夏、町内の中学生と青年四十人を中国に派遣する。